



いにしえ人の暮らしと植物



黄色に色づいたコナラ（12月）

様々な山野草から紅葉まで。四季折々の色に彩られるのも「縄文の村」の魅力の一つ。また、春には山菜が芽吹き、秋にはオニグルミやトチノミなどの山の恵みも一杯です。いにしえ人が糸作りに使ったカラムシなども展示しています。

主な山野草；アオイスミレ、アズマイチゲ、アマドコロ、イカリソウ、イチリンソウ、イラクサ、ウバユリ、ウラシマソウ、エビネ、カタクリ、カラムシ、カンスゲ、キツネノカミソリ、ギンラン、クサンテツ、ジャノヒゲ、シュンラン、ゼンマイ、タマノカンアオイ、ナルコユリ、ニリンソウ、ノビル、ハナウド、ヒガンバナ、ヒトリシズカ、ツワブキ、ヤブカンゾウ、ユキザサ、ワニグチソウ、ワラビ 他



オニグルミの実（9月）

ヤマブキ（4月）



カブトムシ（夏）

昆虫・鳥たちとのふれあい

「縄文の村」では、今までにカブトムシやクロアゲハなど里山に棲息する100種類以上の昆虫や、コゲラ・アオゲラなどのキツツキの仲間をはじめ、30種類以上の鳥や動物が確認されています。運がよければオオタカやタヌキに遭遇できるかも！

※これらの生物は常時棲息している訳ではありません。



ウランミアカシジミ（6月）



アオゲラ



ホンドタヌキ



ツマキチョウとムラサキケマン（4月）

オオタカ

「縄文の村」では、多摩ニュータウン遺跡の縄文時代中期の調査成果等に基づいて植えられた約60種類の樹木をはじめ、200種類以上の植物を見るすることができます。他とは一味違う案内板にも注目！植物と人との関わりなどについて解説しています。

主な樹木；カヤ、アカガシ、アラカシ、シラカシ、シロダモ、ヒサカキ、ヤブツバキ、ヤマモモ、アカメガシワ、イヌシデ、エノキ、エゴノキ、オニグルミ、クヌギ、クマノミズキ、クリ、ケヤキ、コナラ、コブシ、サンショウ、ヒメコブシ、トチノキ、ナツツバキ、ネムノキ、フジ、ホオノキ、ミズキ、ムクノキ、ムクロジ、ムラサキシキブ、ヤエザクラ、ヤマグワ、ヤマモミジ、ヤチダモ、ヤブデマリ、ヤマザクラ、アオキ、イヌツゲ、アケビ、ウツギ、ウグイスカグラ、ガクアジサイ、ガマズミ、クサギ、クサボケ、クロモジ、コゴメウツギ、シモツケ、タラノキ、ミツバツツジ、ヤマブキ、ヤマブドウ、アズマネザサ、オカメザサ、クマザサ、マダケ、ヤダケ 他

トチノキの花（5月）



トチノミ（9月）



キクラゲ（5月）



カラムシ（糸作りの原料）

四季の花とみのり